こんなところに市民憲章

1、富士山のように
高く　教養を深め
視野のひろい市民となります

知るは楽しみなり

永六輔さんを講師に開かれた文化講演会

2月8日、富士市文化講演会が吉原市民会館で行われました。

講師は、テレビ・ラジオでおなじみの永六輔さん。永さんは時の話題や世相、芸能界の交友関係などの話を通して高齢化社会や家庭における子供のしつけなどを愉快に語ってくれました。

この文化講演会は「心の豊かさを求めて」をメーンテーマに、毎年著名人を招いて開かれています。

また、市は毎年秋に「市民大学教養講座」も開催しています。これは市民の皆さんの自己啓発のために行われている教養講座で、好評を得ています。

昭和63年度は、女優の松島トモ子さんや医師で登山家の今井通子さんなど多彩な顔ぶれを講師に、計10回行われました。

〝知るは楽しみなり〟多くの人が学んでいます。

ふるさとの昔話

伝法 泰徳寺の氷石

現在の氷石

浅間上町の泰徳寺に人の背丈ほどもある石があります。今回は、この石の話を住職の木本真学さん（六十歳）に伺いました。

信仰された氷石

溶岩でできたこの石は「氷石」と呼ばれています。

昔は、原田の鑑石園の鏡石・今宮の飯森山の壺石とともに富士の三石と言われ、人々の信仰の対象となっていました。すなわち、氷石は阿弥陀仏、鏡石は勢至菩薩、壺石は観音菩薩を意味していたと言われます。

このように信仰の対象となったのは、富士山信仰に基づいていたからと考えられます。

氷のように冷たかった

この石が氷石と呼ばれる理由は、この石をさわると夏でも氷のように冷たかったからです。

以前、地下水が豊富だったころ、氷石の下に水脈があったため、石は氷のように冷たく、夏には人間のように汗もかきました。

現在は、水脈が下がってしまったからか、冷たいというほどではありません。

郡の石という意味も

また、昔、富士郡にある有名な石という意味で郡をこおりと読みこおり石と呼ぶようになったとも言われます。

やはり夏に人気

木本さんは「最近は健康のため歩く人が多く、時々訪れる人もありますよ。氷石という名前のせいか人気の出るのは、やはり夏休み。子供たちが大勢訪れ、石をさわっていきますよ」と語っていました。

語ってくれた木本真学さん

地名の由来

上加島

上加島というのは、旧加島村の区域です。平垣村、松本村、蓼原村、五味島村、森島村、長通村、本市場村、本市場新田、上・下横割村、水戸島村、宮下村、柚木村、十兵衛村、森下村、中島村の十六村が、明治二十二年合併して加島村をつくりました。

この村々は、富士川の洲の上にできた村で、・印の村は古郡氏の新田開発によってできた村です。

こちら編集室

「今度、市でヘルスセンターを始めたんだって？」と近所のおばあさん。「ヘルスセンター？」よく聞いてみると、カメラルポで紹介したデイ・サービスのこと。お年寄りの口コミで結構広まっています。ところで、取材ではずうずうしくも、入浴中の写真まで撮らせてもらいました。あの時の皆さんの御協力に感謝。

発行・富士市役所　富士市永田町1丁目100番地 ☎51－0123
編集・総務部広報広聴課
人口 221,745人　男 110,044人　女 111,701人
世帯数 64,110世帯
（2月1日現在）